

民主島根

2021年
12.5
第1396号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

水害が相次ぐ江の川流域 早急な治水対策の願い 切実

仁比前参院議員、大平元衆院議員が現地巡り調査



小松自治会長（右から2人目）から要望を聴取する（左へ）仁比前参院議員、向瀬西部地区委員長、多田江津市議と大平元衆院議員（右端）（江津市）

日本共産党の仁比聡平前参院議員と大平喜信元衆院議員は11月22日、水害が相次ぐ島根県西部の江の川の下流域を訪ねて治水対策を調査し、自治会長など被災者から要望を聞ききました。江の川の下流域は国の堤防整備の遅れなどで、近年では2018年、20年、21年の豪雨で3度の浸水被害が発生。仁比、大平の両氏は流域の美郷、川本の両町と江津市の7カ所の被災地を訪れました。中原保彦・美郷町議、森川佳英、多田伸治の両市議、向瀬慎一西部地区委員長が同行しました。



6）は「やつと、いい具合になった」と喜びつつ、移転費用の負担額について「まだ全然わからない」と語りました。江津市の38戸の渡田地区で、自治会長の小松隆司さん（65）は支流の田津谷川の流れを

参院選へ共闘広げよう

尾村県議、市議団ら訴え

元的位置に戻し、堤防をつくる計画が約50年ぶりに動き出したと指摘。「ここに最後まで住みたい」「離れたくない」と言う高齢者も多い。安心して住める治水対策をお願いしたい」と求めました。

尾村県議は「国民の声を聞かない自公政治がいつまでも続いていいわけがない。日本の政治を変える共闘の道を揺るがず発展させるために力を尽くす」と訴えました。また、国会議員に毎月支給される「文書通信交通滞在費」について

島根原発再稼働是非・住民投票へ

松江・キックオフ集会、出雲・設立総会

「コソコソと受任者を増やし、署名の輪を拡げていくことが秘訣だ」と強調。グリーンコープ生協（島根）の吉田由佳理事（島根）の浜田真理子さんからのメッセージが紹介されました。同日は「同・出雲の会」が出雲市内で設立総会を開催。来年1月11日から署名活動を始めます。

「共闘さらに前進を」

仁比氏が江津、益田で集い



日本共産党の仁比聡平前参院議員は11月23日、島根県江津市と益田市で開かれたつどいで、来夏の参院選での勝利を訴えました。（写真）仁比氏は先の衆院選について、自身が応援に行った選挙区を中心に、野党共闘の成果について数字を交えながら報告。特に、衆院選は小選挙区中心の選挙制度であること、参院選でも32の1人区があることから「共闘をさらに前進させるために、共通政策と候補者一本化の双方を早い時期に実現させることが重

要」と話しました。その上で、比例代表での日本共産党2議席減という結果に触れ、NSなどでの野党共闘攻撃に對し、共産党が果たしてきた役割を紹介し、「今後も地域の住民要求と結び、地方政治も国政も変えていく運動が大切だ」と強調。27日に開かれる「4中総」も力に、参院選を勝ち抜こうと呼びかけました。

鼓動 敬愛する瀬戸内寂聴さんが先日、99歳の大往生を遂げた。「書いた、愛した、生き抜いた」を自らの墓銘とした。無頼の生涯はメディアでも大きく報じられたので、ここでは繰り返すまい。他にも我が愛すべき人物がいる。今、BSで再放映中の「フリーテンの寅さん」だ。▼寒風吹き抜ける師走の柴又駅。「お兄ちゃんどうして行くの。正月までいたら...」「そうはいかないんだ。これからは稼ぎ時だから。そこが渡世人の辛いところよ。寅は涙目のサクラを振り切って旅立って行く。いつもマドンナに恋をしてフラレ、とら屋を巻き込んでひと騒動を起こす▼そんな寅をサクラは「お兄ちゃんはいったって弱い人じゃさしいのよ」とかばう。甥の満男は「おじさんは他人の哀しみや寂しさがよくわかるんだ」と尊敬する。そして、マドンナの一人、葉子（松坂慶子）は「お母さんがかじかんだ手をそっと握ってくれたような暖かさ」と寅の魅力を語る。これらは寂聴さんにも言える▼そして、もうひとつ二人に共通していることがある。恋をする周囲はおかまいなしに突っ走ることだ。ただ、寅は銀幕上だから許されるが、実在の寂聴さんはそうはいかなかった。それゆえ苦悩もつきまとうた。51歳にして出家したのも、恋の煩惱から逃れるためだった。若者には「恋と革命を」と説いた▼寂聴さんはつねに社会の不条理や理不尽な政治に反発し行動。それは日本共産党の平和と反骨の理念に通じた。「忘己利他（我を忘れ他人に尽くす）を政治の世界で貫くのが日本共産党。私は同じ1922年に生まれたのよ」が自慢でもあった。（吉）